

平成25年度 第1回秋田市廃棄物減量等推進審議会議事録

- 1 開催日時 平成25年8月2日(金) 午後2時から
- 2 会場 秋田市庁舎議場棟 第3・第4委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員 柴山敦会長、西川竜二委員、須藤彦二委員、佐藤芳昭委員、石郷岡誠委員、佐藤真知子委員、佐々木文勝委員、橋野茂子委員、藤井賢子委員、北村知子委員、糸屋憲一委員、佐々木眞貴子委員、佐藤郁子委員、鈴木善夫委員
(委員15名中14名)
 - (2) 事務局 古里環境部長、中島環境部次長、佐々木環境都市推進課長、斎藤環境都市推進課参事ほか6名
- 4 議事概要 以下のとおり

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| 会長 | (資料2について事務局説明) 事務局の説明に対し、質問など無いか。 |
| 委員 | 組成調査時のサンプル採取は、ごみ袋の容量を考慮しているのか。 |
| 事務局 | ランダムに抜き取っており、容量を考慮したものではない。 |
| 会長 | (試料3について事務局説明) 事務局の説明に対し、質問など無いか。 |
| 委員 | 有料化によりごみ排出量が減ったとはいえ、ごみ減量に対する意識はまだ低い。 レジ袋の削減については、大型小売店は中小店舗に比べ意識が低いように思われる。 より一層の指導をお願いしたい。 |
| 事務局 | レジ袋削減については、ポイント制やレジでの声かけなど取り組みに進展が見られるものの、より一層の啓発のため、さらにスーパー等に呼びかけを行っていきたい。 レジ袋の無料配布の中止まで行けるかは、今後の課題と認識している。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>3年前まで市としてマイバック運動に取り組んだが、震災等により会議がストップしてしまった経緯がある。</p> <p>今後、1から再度検討を行い、次期一般廃棄物処理基本計画で言及できればと考えている。</p> <p>その際には、各委員からも提案をお願いします。</p> |
| 会長 | <p>市民への啓発や、市民協力が進むことを期待する。</p> |
| 委員 | <p>有料化前後のごみ排出量について、季節調整を行わないのはなぜか。</p> <p>未調整の場合、削減率は調整後の値に比べかなり大きくなると思われるが、これをそのまま公表することは、市民に誤解を与えることにならないか。</p> |
| 事務局 | <p>各月の排出量を人口で割るという手法は、有料化の前後とも同じであり、比較に際して調整は不要と考えている。</p> <p>また、比較期間も7月から6月までの1年間を通したものであることから、あくまでも生データで評価している。</p> |
| 委員 | <p>4月19日の広報記事で、目標まで10g届かなかったなど記載があり、状況については十分理解できたが。</p> |
| 委員 | <p>当局の示す15%削減はそのままでは納得しにくい面があり、数値が大きくなりすぎている感がある。国県では季節調整を行うのが統計上常識であり、市でも対応してほしい。</p> <p>他の中核市の有料化後初年度の減量率15%や、審議に当たって市が示した値と比べて差が有るのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>市民に分かりやすくお示しするため、有料化前後1年間の生データを利用している。この7、8月の排出量が明らかになることにより、1年を通したごみ削減の状況が見えると考えており、この先の推移についても、引き続き広報でお知らせしたい。</p> <p>1ヶ月あたりのごみ排出量は、その月の収集日の数に影響を受けるが、審議会の考えていたとおり11～12%の削減率で推移していると考えている。</p> |
| 会長 | <p>継続的に確認し、有料化の効果を確認していく。</p> <p>データには、4月の爆弾低気圧、6月の駆け込み廃棄などの影響が如実に現れており、市ではこのような状況も加味して分</p> |

析してほしい。有料化がゴールではない。

- (資料4について事務局説明)
- 会長 事務局の説明に対し、質問など無いか。
- 委員 基金には、現在いくら積み立てられ、どのような計画で使うのか。
- 事務局 基金は、ごみ処理施設に関する後年度負担を軽減するためのものであり、目標金額は設定していない。改修の時期がきたら原資として活用することを考えている。
積立は今回が1回目であり、現在の金額は資料記載のとおりである。
- 委員 改修等に当たっては基金を利用し、国庫補助などは活用しないということか。
- 事務局 施設新設時は国庫補助が活用できるが、改修は対象にならない事から、すべて市債で対応することになる。このため、後年度負担を軽減するため積立を行っている。
施設の改修に際しては、この積立を活用し、出来るだけ市民の負担を減らしたいと考えている。
- 委員 決算見込みにある「後年度への充当」は、今後基金積立にまわることがあるのか。
有料化反対派から理解は得られるのか。
- 事務局 条例により施設整備基金への積立は概ね1/2と定められており、後年度充当分が回ることは無い。
初年度は想定以上の歳入があったことから環境対策、ごみ処理等各事業で活用したが、余剰金が発生したということ。
差額は、次年度以降の活用となる。
- 委員 資料上段に記載されている各事業に組み込まれるのか。
- 事務局 26年度もしくは27年度予算の中で、これを財源とし、条例で認められた用途に活用することを議会に図ることになる。
- 委員 反対派の中には、手数料が高く、値下げを主張している方もいる。理解が得られるようにしてほしい。

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>市の支出は、収入の見込みを超えない範囲で設定し、事業実施前に議会に諮ることになる。歳入が増えたとしても、差額は議会の承認を得ないと使えない。</p> <p>使用に際しても、条例等で定めがあることから、趣旨に沿った支出となり、見える化等で市民へ報告することになる。</p> |
| 委員 | <p>なぜ、歳入が予想の倍近い値となったのか。</p> <p>また、1世帯あたりの手数料負担額はいくらか。</p> <p>後年度繰越についても、額があまりにも大きいのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>手数料収入は、ごみ袋の比重による試算と想定販売枚数による試算の二通りで算出した。比重計算による約2億9千万円と先行自治体枚数の実績から約3億9千万と試算し、確実な金額として年間3億円、平成24年度は、年度途中の実施であることから、10か月分として2億5千万円を見込んでいた。</p> <p>有料化初年度ということもあり、小売店が十分な量の袋を仕入れたことなどから、想定より多くの収入があったものと考えている。</p> <p>また、利用される袋も小容量の物に移行すると想定していたが、現時点でも45リットルが50%程度を占めるなど、ごみ量は減ったが手数料は減らない状況にある。</p> <p>ごみ集積所への排出状況も45リットルの袋を余裕のある使い方出されている状況がある。</p> <p>1世帯あたりの負担額については、年104回の収集日に、1回1袋ずつ排出した場合、年間2千円程度になると考えている。</p> <p>また、後年度繰越分についても、一度に全額使うわけではなく、見える化で管理し、年度ごとに施策的な判断の下、重点的に使うことも考えられることから一概に金額が大きいから問題であるとは捉えていない。</p> <p>扱いについては、今後財政当局と詰めていくことになるが、施設整備基金へ積み立てることは考えていない。</p> |
| 委員 | <p>新たな基金を作って管理する考えは無いか。</p> |
| 事務局 | <p>ご指摘の方法を含め、いろいろな選択肢があり、消費税など勘案すべき問題もある。</p> <p>また、今後、常に事業費を歳入が上回るとは限らず、歳入が</p> |

支出を下回った場合、差額を一般会計から持ち出すことも考えられることから、きちんとした見える化を進めて行きたい。

委員

手数料額は、周辺自治体の事例を参考に審議会で十分議論を尽くし設定したものである。また、制度導入初年度であり、歳入、歳出ともその額について現時点で論じるのは性急すぎるのではないか。

当局には、今後、手数料の使い道等を含め、市民に誤解が生じないように、十分な説明を行うよう求める。

事務局

十分気をつけ、誤解のないようにしていきたい。

委員

2億5千万円が4億5千万円になったのは、説明が無いと誤解されやすい。小売店の在庫や一般家庭に複数種類の袋がストックされていることなど説明をつけた方が分かりやすい。

また、今年度予算については分からないが、初年度は手数料のギャップが大きかったが、今後適正化されていくと思われるので、見守りたい。

大きな袋へ少量のごみを入れて排出することは、1リットル1円以上の負担となることから、適正サイズの袋利用について啓発を進めてほしい。

委員

25年度予算については、袋の仕入れ量から推定し、4億円の収入を見込んでいる。また、減量意識の進展により、45リットルの比率が50%から35%まで下がると予想している。

分別を進めることにより、ごみ袋は小さく出来ることを啓発していきたい。

委員

後年度繰越分は当局案のように扱って差し支えないのか。会計上、使い切らねば問題になるのではないか。

事務局

市の一般会計内での遣り繰りであり、経理上問題は無い。

会長

有料化に当たり、しっかり議論を積み重ねているが、反対の方もいることから、見える化をはじめ、しっかり説明できるようにしてほしい。

会長

(資料5について事務局説明)
事務局の説明に対し、質問など無いか。
(質疑なし)

(参考資料1について事務局説明)

- 会長 事務局の説明に対し、質問など無いか。
(質疑なし)
- 会長 全体を通じて質疑等は無いか。
- 委員 清掃事業概要にスラグの発生量と売却益、発電収入についても記載してほしい。
また、関連法令についても記載してほしい。
- 事務局 出来る限り要望に沿いたい。
- 委員 ごみ減量イベントに参加しているが、材料等はすべて市で用意しなくとも良いので、コミセンなどもっと身近なところでも開催してほしい。
お互い顔を突き合わせて話をするのが、ごみ減量への動機付けや、ごみ減量サポーターを生むことにつながるのではないか。
- 事務局 堆肥化講座は環境部庁舎で主に行ってきたが、コミセンでの開催も検討を始めている。提言に感謝する。
- 委員 環境教育についても配慮をお願いします。
- 事務局 環境教育については、専門担当を置き、温暖化等環境に関する学習会を開催するなど力を入れている。お声がけ頂ければ、訪問することもできるので、活用してほしい。
- 事務局 次期一般廃棄物処理基本計画をまとめるに当たり、廃棄物行政について広くご理解頂き、指導・助言をいただければと考えている。
10月開催を予定している第2回の審議会では、施設見学を予定しているので、ぜひ参加してほしい。
基本計画は、平成27年3月までに策定の予定であり、委員の任期内である2月まで成案としたいので、ご協力をお願いします。
- (終了 16時12分)

